



妊娠糖尿病と 言われたら

稲城市保健センター

☎378-3421

妊娠中は誰でも血糖値が上がりやすくなります。特に元々の体重が重い、両親や兄弟に糖尿病の人がいる、35歳以上などの妊娠では、必要なだけの血糖値を下げるインスリンというホルモンを分泌することができにくく、更に血糖値が上昇しやすいと考えられています。糖負荷試験により診断が確定すると、簡易血糖測定器による血糖自己測定と1日

4～6回の分割食の導入が開始され、必要な場合は内科で受診していただくこととなります。多くの方が「自覚症状はないのに：」「糖尿病なんてまだずっと先の話とと思ってた：」とおっしゃいます。

実は妊娠すると血糖値を上げるホルモンが胎盤で産生され、妊娠中期以降にインスリンが効きにくくなるという背景があります。妊娠糖尿病とは、糖尿病と診断されない女性で糖負荷試験の基準値を一つ以上満たす場合のことであり、既に糖尿病と診断されている糖尿病合併妊娠や妊娠中に診断された明らかな糖尿病とは区別されます。世界9カ国で実施された臨床研究を元に、2010年から新しい妊娠糖尿病診断基準が最新

のガイドラインに取り入れられています。旧基準に比べて陽性者数がおおよそ3～4倍になると推定され、約1割の妊婦が何らかの耐糖能異常を合併するといわれています。

母体の将来的な糖尿病の発症が危惧されるだけでなく、妊娠糖尿病は様々な周産期合併症、巨大児や新生児低血糖・子宮内での胎児死亡といった問題や、羊水過多症、妊娠高血圧症候群、易感染性といったリスクが懸念されます。

妊娠糖尿病と診断されても病気に向き合って様々なリスクを防げるように、医療者としてのサポートに努めさせていただきます。
稲城市医師会 平尾 薫丸